

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名 伊万里市立伊万里中学校

達成度 (評価)  
 A: 十分達成できている  
 B: おおむね達成できている  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

R5.3.24現在

1 前年度 評価結果の概要  
 ・本年度もまた新型コロナウイルス感染症対応に苦慮した。2回の学校評価アンケートを実施した結果を見ると、中間評価後の取り組みに改善が図られ、それぞれの成果目標の達成に努めることができた。職員間での情報共有がなされ、全職員がチームとして取り組む意識が高まっている。  
 ・本年度もコロナ禍で学校行事が縮小され、日程調整のしわ寄せにより、生徒の活躍の場が制限された。また重なる行事の変更が職員の疲弊につながったが、時期や内容を工夫してできる限りの行事を実施することができた。来年度も、今年度同様生徒たちが学習や行事に生き生きと取り組む姿が見られるように、しっかりと職員間の意思疎通を図りながら、教育活動に取り組みたい。

2 学校教育目標  
 『やる気、根気、負けん気 やるこんまの伊中 PRIDE×DREAM』  
 (校訓「清水精神」 ○形を正す ○挨拶をする ○負けじ魂を持つ ○物を大切にす ○思いやりの心を持つ)

3 本年度の重点目標  
 1) 人間尊重の精神を基盤とした学校教育の推進 2) 道徳教育の推進 3) 人権・同和教育の推進 4) 特別支援教育の推進 5) 基礎・基本の定着と活用力の向上  
 6) 自ら学ぼうとする学習態度の育成 7) 読書活動の推進 8) 宿題の充実 9) 特別活動の充実 10) ボランティア活動の充実  
 11) ふるさと学習の推進 12) 部活動の推進

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・マイプランを昨年のように張り出してはいるが閲覧できるようにしている。 ・教科や学年で共通理解をして2学期より実践中である。12月の調査で状況を見る予定。	A	・教科や学年で共通理解をして2学期より実践・継続中である。12月の調査では、社は現状維持、他は下降。唯一1年英語が昨年より上昇。これからの取り組みが重要である。	A	・下降が見られる教科があることから、これらの教科の学力向上が必要と思われる。 ・教職員間の学力向上に関する情報共有は実施されていると思う。定期的に各学年担任間でも共有も行われているように思うので、引き続き、継続して欲しい。既に、実行済みかもしれないが、教職員間の「情報共有の場=フラットホーム」などの構築を行って、情報共有しやすい環境を作ってみてはどうか？
	○学習内容の定着に向けたわかりやすい授業の実践 ○望ましい学習習慣の形成	○「自分の考えや意見を書く活動を通して、理解力や表現力が向上してきた」と肯定的な回答をする生徒の割合80%以上を目指す。 ○「平日の家庭学習の時間」1時間以上の生徒の割合80%以上を目指す。	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合い活動」を設定する。 ・AIDノート(伊中版生活ノート)を活用する。 ・家庭学習アンケートを実施する。 ・学習計画表を活用する。	B	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合い活動」を設定し、継続実践できている。 ・AIDノート(伊中版生活ノート)は有効活用できている。 ・学習計画表を活用し、テスト前など計画的な学習ができている。	A	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合い活動」を設定し、継続実践できている。 ・AIDノート(伊中版生活ノート)は、続けて有効活用できている。 ・各学年で学習計画表を活用し、テスト前など計画的な学習ができている。	A	・AIDノートや学習計画表を使い、「学習計画の認識度向上」、「1日の振り返り」、「教師と保護者の情報共有」を行う取り組みは良いと思う。 家庭での学習促進のために、もっと保護者の関与が必要と思う。この点に関しては、PTAを通じて、保護者への啓蒙を行うことが必要と思う。学習計画表を保護者が把握し、その通りにできているかどうかをチェックする習慣を保護者に持ってもらう「しかけ」が必要。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権感覚アンケート(年間2回)を実施して肯定的な回答をした生徒65%以上を目指す。	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートを実施する。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を行う。 ・生徒会活動を通して啓蒙を図る。 ・人権・同和教育の職員研修及び授業実践の充実を図る。	A	・道徳アンケートを実施した。年度末(2月)に再度実施予定。 ・ITで授業を実施できた。 ・校内研修で、授業実践と研究会をもった。教師の指導力向上を目指し、佐賀大学から講師を招聘することで多くの学びを得ることができた。 ・次回校内研修にて、話し合い活動のマニュアルを作成予定。 ・人権・同和教育の授業実践を各学年計画通りに実施できた。	A	・道徳アンケートから、「道徳の授業が好きだ」、「道徳の授業が自分の生き方に役立つ」と答えた割合が増えた。このことから今年度の道徳授業の取り組みが一定の効果があったと見える。 ・話し合い活動のマニュアルを作成し、次年度より活用する。 ・人権・同和教育の授業において、生徒の感想から自分事として考えることができている生徒が増えたことが伺える。このことから、1学期から授業を積み重ねてきた効果が表れたのではと考える。	A	・人権講演会や道徳教育の質の向上に向けての取り組み、また道徳に関するアンケートの実施など道徳観、倫理観の醸成に関する活動は十分展開されていると思う。現在は学校のみ活動に留まっており、今後はPTAなどを通して、保護者を巻き込んだ活動に広げて行ければ良いと考える。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上を目指す。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を行う。	A	・いじめ対応マニュアルの見直しと作成を行った。 ・学年単位で、共通の教材を利用して、いじめ防止に関する授業を実施した。また職員向けの研修では、事例をもとに些細な事案についても個人で判断せず、学年等で判断することの確認を行った。	B	・いじめ対応マニュアルの見直しと作成を行った。 ・学年単位で、共通の教材を利用して、いじめ防止に関する授業を実施した。 ・いじめに関する職員研修は実施できなかったが、些細な事案についても個人で判断せず、学年等で判断対応することができた。	A	・いじめが減少傾向にあるようだが、親へのいじめ対策の周知が必要と思われる。 ・いじめの早期発見に関しては、普段の学校生活の中で把握し得るものを見つける体制が取られている。また、いじめ発生後は学校、生徒指導、保護者の三者による面談を行い、再発防止に向けての対応をしている。但し、いじめへの対応は学校のみで対応するのではなく、基本は、家庭での保護者による対応が前提であることを、保護者が認識することが必要と考える。
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上を目指す。	・PTA生きた力・保体委員会が教育講演会を実施する。 ・進路学習や総合的な学習の時間におけるキャリア学習を通して、将来への希望と生き方を考えさせる。	・2年生では、職場体験学習に代わる進路学習としてドリームボード研修を行い、自分の夢や目標に向き合い考えることができた。 ・3年生では、進学指導として10月下旬から受験期までの長期の面接指導に取り組んだ。それぞれが、近い未来の自分を想像しながら真剣に取り組むことができた。	A	・2年生では、ドリームボード研修や日々の進路学習を行ったことで、自分の夢や将来のこと、進路について自分事として考える生徒が増えた。 ・3年生では、進学指導を随時行い、受験への心構えや面接指導に取り組んできた。真剣さが増して受験に臨むことができた。	A	・2年生では、ドリームボード研修や日々の進路学習を行ったことで、自分の夢や将来のこと、進路について自分事として考える生徒が増えた。 ・3年生では、進学指導を随時行い、受験への心構えや面接指導に取り組んできた。真剣さが増して受験に臨むことができた。	A
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒100%を目指す。 ○朝食を毎朝とっている生徒80%以上を目指す。	・給食週間を設定する。 ・栄養教諭による講話等の取組を行う。 ・生徒会活動を通して啓蒙を図る。 ・学級活動や家庭科の授業に朝食の大切さについての学習を仕込む。	B	・「健康に食事は大切である」と考えている生徒は、ほぼ100%に近づいているが、行動を伴っている生徒は80%に満たない状況である。 ・栄養教諭による講話は2回実施できた。 ・家庭科の授業における食事についての指導は計画的に実施できた。	A	・1月には全国学校給食週間の取組として、給食が学校に届けられるまでの動画を全校で視聴し、給食へのありがたみや、作ってくださる方への感謝の気持ちを高められた。 ・栄養教諭による講話・給食指導は内容を検討しながら、年5回、計画的に実施できた。 ・家庭科の授業においても、計画的に食に関する指導ができた。	A	・給食の廃棄が更に少なくなるような対策が必要と思われる。 ・健康を維持する上で「食事が大切だ」ということを生徒も保護者も共通認識として持っているが、食事を摂ることに関して、生徒と保護者の間に若干の認識のズレがある。保護者向けに生徒の摂食確認の促進を行う必要があるように感じた。
	○心身の健康増進のための啓蒙と推進	○病気や感染症への対策を意識して実践している生徒85%以上を目指す。 ○運動習慣のある生徒70%以上を目指す。	・生徒や保護者へ通信等での啓蒙を行う。 ・部活動による心身の健全育成を行う。	A	・新型コロナウイルス感染症の予防のため、生徒・職員の検温や保健だより等での啓蒙を引き続き行う。 ・部活動では、確実に週2日の休養日を設けている。また、下校指導を通して挨拶運動にも積極的に取り組んでいる。	A	・保健だよりや体温チェックなど感染防止対策に努めることができた。また、手指消毒やマスクの着用は習慣化できており目標である85%を超えることはできていると考える。 ・部活動では、週2回の休養日を設け、活動を行った。体調やけが等の予防を徹底して活動できた。	A	・3月13日よりマスク着用が個人の判断となっているが、学校としての対応を決めておく必要はないのか、また、5月より5類へ移行後の対応も検討するべきと思われる。 ・コロナ禍ということもあり、感染症対策に関しては生徒も保護者も意識は高く、その実践もできていると思う。一方で、制限がある生活が長くなり、精神的に抑圧された、閉鎖的な感覚を持った生徒がいると思われるので、今後は、そうした生徒へのメンタルサポートが必要と考える。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定をする。 ・学校閉庁日の設定をする。 ・部活動休業日の設定をする。	B	・定時退勤日を毎月設定し推奨している。 ・学校閉庁日の設定をしている。 ・部活動休業日の設定をしている。	A	・職員の勤務時間については、業務記録で確認し、時間外在校等時間の削減に努めている。 ・部活動休業日については、きちんと守ることができている。	A	・学校での働き方改革が進められているようだが、自宅へ持ち帰りの仕事が増えていることは無いのだろうか？ ・教職員の長時間勤務の常態化は「変化がない」と思える。また、「怒る」ことを制限されているため、生徒への改心促進に時間がかかっている。この問題は、今後の教職員のあり方や学習指導要領の見直しが必要と考える。そもそも「学校とは？」という原点に立ち返る必要があると考える。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○教師力の向上 (非公表項目)	○専門性の向上に向けた研鑽 ○組織の一員としての職務遂行	○教材研究、自己研鑽に努める。 ○協働や連携によるOJTを実践する。 ○報告・連絡・相談による共通理解・共通実践を遂行する。	・校内研究、校内研修による課題の焦点化と情報提供を行う。 ・各部会(学年、教科、分掌)の情報交換を行う。	A	・校内研究、校内研修の課題点を洗い出すとともに研究主任への情報提供を行った。 ・各部会における取組を把握し、よりよいものとなるように情報交換をおこなった。	A	・校内研究については、研究主任を中心に各学年がまとまって取り組んだ。 ・各部会(学年、教科、分掌)の活動については、各主任を中心に組織的に職務遂行した。	A	・実際に特別支援教育に関する専門性の向上に向けた取り組みや、学校組織としての取り組み、職務遂行について、振り返りやオープンになっていない。従って、評価もできない。可能なならば、特別支援教育に関する取り組みなどを「清水のほとり」などに掲載し、みんなに周知しても良いと考える。
○特別支援教育の充実	○教職員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する意識や専門性の向上、90%以上を目指す。	・会議や研修で、共通理解と情報共有を図る。 ・授業実践を通して情報交換、指導方法の研究をする。	A	・毎週の特別支援会議や研修で、共通理解と情報共有を図っている。 ・授業実践を通して情報交換、指導方法の研究をしている。	A	・定期的な校内支援委員会や特別支援員打ち合わせで、効果的な情報共有を図ることができた。 ・授業実践を通して指導法の改善で、配慮が必要とする生徒に支援ができた。	A	・個々の生徒に応じた対応をしていると思う。また、教職員の特別支援教育に関する意識があると思う。特記すべきは、生徒間で特別支援教育を受ける生徒への理解が高いこと、助け合う気持ちを持った生徒がいることの証左だが、日頃の道徳教育、倫理教育の成果と考える。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育  
 ・本年度も続けて、コロナ対応に苦慮した。2回の学校評価アンケートを実施した結果を見ると、中間評価後の取り組みに改善が図られ、それぞれの成果目標の達成に努めることができた。職員間での情報共有は昨年同様できたので、全職員がチームとして取り組む意識がさらに

5 総合評価・  
次年度への展望

高まっている。  
・本年度はコロナ禍がやや縮小し、学校行事等も工夫して実施された。生徒の活躍の場は幾分制限されたが、昨年よりその場面が多く見られた。来年度も時期や内容を工夫して、できる限りの行事を実施したい。生徒たちが学習や行事に生き生きと取り組む姿が見られるように、職員間の意思疎通も図りながら教育活動に取り組みたい。